



ずーっとずっと大好きだよ

神宮前小学校 三年一組 矢澤秀都

ぼくは、「ずーっとずっと大好きだよ」というお話を読みました。この本を読んだきっかけは、二つあります。一つ目は、題名の「大好きだよ」という言葉がぼくの心にぐっとひびいたからです。大好きだよって言う言葉は、だれかに言われた時も、だれかに言う時も、両方とも心があたたかくなれるから、とてもいい言葉だなあと思いました。二つ目は、ぼくが小さいころ、お母さんがよく読んでくれた本だったからです。お母さんもこの本が大好きと書いていました。だからぼくもこの本が好きになりました。

ぼくが、この本を読んで一番心にのこった場面は、主人公とエルフィーという犬が夜主人公のへやでいっしょにねる場面です。その中でも一番心にのこった所は、主人公がねる前かならず「エルフィー、ずっと大好きだよ。」と言う所です。エルフィーはねる前を楽しみにしていたと思います。なぜなら、昼間はだれも、「大好きだよ。」って言うてくれないけど、ねる前だったら、主人公が言うてくれるからです。エルフィーはそのときと心があたたかくなったと思います。ぼくは、主人公がえらいなあと思います。理由は、みんなエルフィーのことを「大好き」って思っていたのに言うてあげなかったけど、主人公だけエルフィーにかならず「大好きだよ。」って

言ってあげたからです。ぼくだったら、「大好きだよ。」とは言ってあげるけど、わすれてて言ってあげない時もあると思います。

二番目に心にのこった場面は、ある朝エルフィーが主人公の部屋でしんでいた場面です。その中でも一番心にのこった所は、みんなで、エルフィーを庭にうめる所です。その時みんなないてかなしそうにしていたけど、一番かなしいのは、主人公だと思います。なぜなら、主人公とエルフィーは、主人公が小さいころからいつもいっしょにいて、いっしょにせい長していっぱいあそんだり、いっしょにゆめを見たりしていました。だから、すごく大好きで大切な犬だったと思います。となりの子が「子犬をあげる。」と言ったけど、主人公は、「いらない。」と言ったから、よっぽど主人公はエルフィーのことが好きなんだなあと思いました。

この本を読んでぼくが気がついたことは、心の中で思っているけど、言葉にしないと相手にはつたわらないということですね。ぼくも大切な人や家族が生きている間に、今思っていることをすなおに言葉にしてつたえたいです。ぼくも相手も心があたたかくなれるように、

「ずーっとずっと大好きだよ。」
と言っていきたいです。